

令和4年度 南砺市総合計画推進委員会 議事概要

開催日時：令和4年10月17日（月） 9時30分～11時20分

開催場所：南砺市役所別館3階大ホール

出席委員：10名 中村委員長、大村副委員長、川合委員、古川委員、森岡委員、松本委員、羽柴委員、原田委員、鵜野委員、品川委員（代理：大木氏）

推進本部：10名 市長、副市長、総合政策部長、総務部長、市民協働部長、ブランド戦略部長、ふるさと整備部長、議会事務局長、教育部長、地域包括医療ケア部長

傍聴人：0人

次第

1. 開会
2. 委嘱状の交付
3. 市長あいさつ
4. 委員の照会
5. 委員長及び副委員長の互選
6. 議事
 - ・総合計画 令和3年度実績の検証結果について（資料1）
 - ・令和3年度地方創生関係交付金事業の進捗について（資料2）
7. 意見交換
8. 閉会

議事要旨

○：委員からの意見・質問 ●：推進本部の意見・回答

（6 協議事項について資料に基づき事務局より説明）

【未来に希望が持てるまち】について

- 政策（3）「結婚・出会いの場の創出」について、南砺市は婚活事業が他市より優れており、全国から視察が来るぐらい取組をしている。「出会い」に関しては上手にしているがこの政策の指標は「年間出生数」となっている。この評価で本当に正しいのか。また、令和3年度実績の出生数466人は3年間でのものか、2年間でのものなのか。
- 政策（2）「出産子育て支援」も指標は「子育て世帯の転入数」だがこの指標でよいのか。
- 指標については説明資料P12以降に説明がある。評価については個別事業毎に達成度を算出し、それぞれの事業を評価したうえで、その上位目標がどうなっているかというのを見ており、直接関係がないように見えるが、適切な指標をとっている。同様に政策（3）

「結婚・出会いの場」についても、きちんと婚活の数字を押さえたうえで評価をしている。出生数 466 人は令和 2 年度からの 2 年間の累積である。

- 資料のつくり方が結果だけを先に記載していてわかりにくい。わかりやすく提示するよう工夫していただきたい。年間 200 人程しか産まれていないという数字だけが書かれており、文章での危機感や説明がない。
- 部活動の拠点校化と特認校制度の導入は現在、市民に制度内容に誤解が生じているとして議会で中断しているはずである。説明資料の評価に「良い影響」として書かれているのはいかがなものか。
- 最近の議会でそのような状況であることは承知しているが、この評価はあくまで令和 3 年度の評価である。
- 年度年度で評価を行い、令和 3 年度の状況についてはきちんと内容を載せているのだから、「良い影響」でよいと思う。コロナを巡る評価と同じで、長期の目標を定めているのだから、コロナの影響はあるけれどその時点の目標と実績で評価しようということと同じである。
- 政策 (1)「未来に夢と希望をもてる教育環境の充実」は令和 3 年度の個別事業達成度がほとんど「a」にも関わらず政策評価は「C」である。今後の取組方針も同じような項目があがっているが、今後もこの取り組みを行っていっても政策評価が「C」以上となるのか。
- おっしゃられるとおり、個別事業の成果が上位指標に繋がっていなかった。検証結果の総括にあるとおり、「誰のために」「何のために」行う事業かを改めて認識したうえで、事業を見直し、それでも足らないようであれば新たな事業を追加する必要があると考えている。

【多様な幸せを実感できるまち】について

- 政策 (1)「心身ともに健康で暮らしやすい社会の構築」の指標は「健康寿命」となっているが、みんな高齢になると持病の 1 つはもっているものであり、「健康寿命」というと病気にならなく罹っていない元気な状態に聞こえる。持病等を持ちながらも幸せに長生きする社会を作ろうというのが最近の国の方針となっており、「健康寿命」という言葉を使い続けるのはいかがなものかと思う。
- 指標「健康寿命」は要介護度 2 未満を健康と捉えている。この指標は国でアンケートをとり算出しているが、まったく何にも罹っていないという人だけではなく、「健康寿命」には要介護度が比較的軽度な人も含まれており、市が指標として使用することは間違いないと言われている。
- 「健康寿命」は介護度 2 未満の人が人口に占める割合なのか。80% ということか。

- 「%」ではなく「歳」。介護度2未満の期間である。心身に不安のない日常生活を問題なく過ごせる期間を延ばそうということを目標としている。
- 南砺市は高齢者の自殺率が高く危機感を持っている。衝撃的ではあるが「自殺率」を指標にとりいれてはどうか。
- 様々な面でアンテナを張り、数値を評価し、政策に繋げていただくことは大事である。
- がん検診の受診率が向上したと説明資料の「良い影響」に記載されている。このコロナ禍でどのような状況か。
- 40歳以上の胃がんの検診率が16.9%が17.3%、肺がんは32.3%が50%に増加した。

【心豊かな暮らしができるまち】について

- KPI「製造品出荷額」の実績値が「-」で達成度も「-」、「外国人延べ宿泊者数」は目標値17,536人に対し実績値741人で達成度「d」。外国人延べ宿泊者数は当然コロナの影響で外国人が来れなかつたので減ったもの。個別事業の評価でも実績値が「-」のものと「0」のものがある。コロナできなかつたものは無理に評価せず、全て「-」でよいのではないか。そのせいで、一生懸命取り組んでいるのに、あきらかにコロナの影響を受け低い評価となっているものがある。
- KPI「製造品出荷額」の令和3年度実績値は、例年8月頃に把握できるものが、本年は12月に公表予定であるため、現在お示しすることができず「-」となっている。個別事業の「特産物販売促進事業」についても実施が年度末になり、数値の把握は翌年度からとなる。一方で実施する予定だった事業を中止した場合は「0」としており、コロナ禍の影響も含めて要因を分析し、今後の取組に繋げることとしている。
- コロナの影響によるものかどうかはしっかりと把握していただきたい。そうでなければ、コロナの影響でもないのに、達成度が低いものが紛れ込む恐れがある。

【皆で考えともに行動できるまち】について

- この評価検証資料で唯一、なんとSDGsポイント事業を廃止するという記載があるが、これだけをやめるのは何か理由があるのか？
- なんとポイント制度の利用者が固定化し、地域の課題解決という役割は小規模多機能自治が全地区で始まったことにより代替できるということで、廃止させていただいた。
- ということは、来年の評価検証からこの事業は記載されないということか。
- はい。

【全体について】

- 【心豊かな暮らしができるまち】の政策(3)「地域の活力を支える産業の発展」指標、

「平均所得」が令和2年度よりも上がっている。給料が上がったのは何の調査でわかったのか。一般の市民は豊かになったとは感じていないと思う。

- 市町村課税状況等の調べにおける総所得金額／所得割納税義務者により算出している。計算には納税義務者数も影響してくることから、分母が減ったことにより平均所得が上がったということも考えられる。
 - 「平均所得」がいくらになれば政策評価が「B」になるのか。
 - 個別事業とKPIの達成状況と政策目標の達成状況で総合的に判断しているため、現在の政策の目標値を達成した状態のまま、KPIの達成状況が改善されてくると評価もあがる。
-
- 全体的に指標の言葉を考えた方がいい。難しい言葉が多く、わかりにくいと感じた。ヤングケアラーや引きこもりの取り組みについて、家庭の問題なので行政が入りづらいと思うが、「誰ひとり取り残さない」を将来像にあげているので、進めていただきたい。
 - ヤングケアラーの問題について取り組まれている課はあるのでしょうか。
 - 今年の秋に富山県でヤングケアラーについての調査が実施され、近いうちに結果が公表されるものと思っている。心理的に学校に通えない生徒については教育委員会の専門職が個別にできる限りの対応をしており、ヤングケアラーについても、どのような支援策が必要か、今後検討していきたい。
-
- 抱点校化、特認校制度の話もでていますが、今実際に学校に通っている子供たちがいかに幸せに暮らしていくかも考えていただきたい。
市の手厚い子育て支援を市内外へ周知するため、全庁的にシティプロモーションに取り組む必要があると書かれているが、とても重要なことだと思う。実際に南砺市で子育てをしているが、他の市や県と比べて、手厚い支援をしていただいている。しかし、他の市や県と比べて差があると気付いたのはつい最近であり、もっと広く周知していくことで人口増加や子育てを考える人の増加につながると思う。
 - 介護のことも触れられているが、介護の現場は高齢者が高齢者を支える状況になってきている。地域の交流センターも高齢化してきている。厳しい問題だが、みんなが幸せになる取組みを考えていただけたらと思う。
-
- 【未来に希望がもてるまち】政策(1)「未来に夢と希望をもてる教育環境の充実」の指標「学校が楽しいと思う生徒の割合（中学生）」が低下しているが、何か考えられる要因があるのか。
 - 正直下がった原因が特定できない。事業を組み合わせながら、数値が上昇するよう取り組んでいきたい。

○ せっかくの資料なので、市民の方に如何に周知していくかが大切なことである。対処していただければと思う。記載されている「今後の取組」についても、ぜひ進めていただきたい。

D X等は進んでいるところは対応できるかもしれないが、中小の事業所ではなかなか難しいところであり、フォローをお願いしたい。SDGs、特にカーボンニュートラルの取組はこれからどこの自治体も取り組んでいかないといけないと思うので、主に費用負担といった話にはなるかもしれないが、課題として取り上げていただければと思う。

○ 一人一人価値観が違うなか、いろんな仕掛けをされ、市民一人一人が幸せになるよう考えておられる行政の方に頭が下がる。このようないろんな施策を市民の方が理解できれば、将来像「誰ひとり取り残さない 誰もが笑顔で暮らし続けられるまちへ」実現のために行政が何を行っているか感じができると思うので、細かい表現や数字よりも、皆さんの気持ちが伝わる様にわかりやすくお伝えしていただきたい。

● ご指摘いただきました、指標のわかりにくさについては、今後検討を進めてまいりたいと思います。

(閉会)